

2024 年度「Summer Abroad(US)」 参加レポート

文学部 英語英米文学科 2 年

この海外短期研修に参加するまで、訪れたことのある国と言えば台湾くらいで、そのほかの国に行ったことはありませんでした。私はヨーロッパの地域に対する興味や憧れがあり、今回の海外短期留学に参加することを決めました。最初は文化が大きく異なる環境の中で三週間過ごすことができるのか、そもそも現地の人々と上手くコミュニケーションがとれるかどうかとも不安でした。自分は英語が全くできないというわけではありませんが、実践的に使用する場面というのはごく限られた場面ではしか使わなかったため、しっかりとアウトプットできるかもわからない状態でした。

しかし、いざ現地へ行ってみると、自分の思い込みや偏見が勝手に自分の不安を膨らませていただけで、何事もなく無事に帰国ができました。現地で誰よりも多く会話を交わしたのはやはりホストファミリーです。最初こそ会話はぎこちなく、満足に話すこともできなかったものの、日に日に話す機会を増やしていくことができました。会話を通してたくさん語彙が増え、決して流暢に話せるようになったわけではありませんが、拙い英語ながらもコミュニケーションをとり、自分と文化の異なる人と話す楽しさを噛みしめました。

ただ、もっと自分がたくさん英語を話すことができれば、もっとたくさんコミュニケーションができただろうと思うもどかしさも感じました。そのため、英語学習に対する意欲は以前よりも向上しました。これまでは手元にある参考書の問題などで勉強をしていましたが、学校の先生のように聞き取りやすく、ゆっくり話してくれるような人はほぼ街中では見かけることはなく、自分の耳をもっと鍛えるべきだと感じました。いわゆる受験のための英語の学習と、英会話や映画から学ぶ英語のギャップは、想像していたものよりも大きいと感じました。もちろん基礎は大切ですが、現地の人でも正しい文法通りに話していないこともあれば、略語、スラング、決まったフレーズや、動作に関しても、独特のジェスチャーなど、日本語では直訳できない、日本人には伝わらない物が多くあると感じました。自分が英語を何に使いたいのか、どう勉強するべきなのかの指針を決めるためにも、今回の留学は良い経験になりました。現地の大学では、英語の授業を講義形式でなく、コミュニケーションをとることに重きを置いて実施しており、先生ともコミュニケーションをとって最後まで楽しみながら授業を受けることができました。言語はもちろんのことながら、食べ物、建物の違いも経験することができました。これまで食べたことのない食べ物や、乗ったことのない乗り物、日本ではみることのできない建造物、世界遺産など、多くの文化、国の世界観に浸ることができました。これらの経験すべてがわたしにとってはカルチャーショックで、思い出の中でいつまでも色褪せずに残ることができる宝物です。不安を抱えながらも行った留学でしたが、思い返してみれば悪い思い出よりも楽しかった、嬉しかった思い出のほうが多く、長いようで短い有意義な三週間でした。



以上